



北村 尚美さん

★ペルー・メキシコ・滋賀・宮古島★

1987～1989年、青年海外協力隊（日本語教師）として、ペルーの日系人学校（幼小中学校）に派遣される。帰国後、日本語教育長期専門研修を受け、日本語教育能力検定試験に合格。

1991～1994年、国際交流基金日本語教育派遣専門家として、メキシコの日本語学校で勤務。その間に会ったメキシコ人のご主人と結婚し、ご長女を出産。

任期終了後、滋賀県で3人の子育てをしながら、日本語通信教育の添削指導、中南米の研究をする。現在、小学校でペルー児童のサポート、スペイン語通訳、また、自然を紹介する里山活動や畑づくりも行っている。

日墨交流400周年の2009年、沖縄の宮古島方言で歌うミュージシャン、下地 勇しもし いさむのメキシコ公演を「おっかけて」15年ぶりにメキシコへ行く。「人と人が一瞬でも、感動を共有できれば、言葉や国の違いは消滅し、いい方向へむかうはず」と信じてすすむ日々。

風の音、^{うぐいす} 鶯の鳴き声が聞こえてくる

自然豊かな場所。

メキシコの彩色豊かな雑貨が、素敵に溶け込む
北村尚美さんのお宅に伺いました。

メキシコと日本の文化への愛情であふれています。



△ 木造でこげ茶色の外観、屋根はモスグリーン、赤い屋根の郵便ポスト、が目印のご自宅



△ メキシコ雑貨の数々が飾られたインテリア



△ ご主人の手作りの「マヤ暦のカード」や「マヤ文字の印鑑」などオリジナル作品も多数

日本語教師のきっかけは青年海外協力隊の試験

大学の教育学部を卒業後、図書館勤務をしていた北村さんですが、ふと目にとまったポスターから青年海外協力隊に応募する気になります。もともと“小学校教諭”として受験する予定が、当日の問題用紙を見て、急遽“日本語教師”に変更。ここから、北村さんの日本語教師への道は始まります。

“その時その時の選択は、直感で。”と、笑いながら話す北村さん。

でも、お話を伺っていると、北村さんは、日ごろから自分自身を高め、チャンスとタイミングを作るのが、とても上手な方ようです。

海外での日本語教師としての活動を伺いました。

◆ペルー、メキシコとも「スペイン語」



ペルー編 (青年海外協力隊) 1987～1989年

派遣先：Colegio no estatal La Victoria (日系人学校)

青年海外協力隊としては、北村さんが初代。

内容：継承語としての日本語の指導

対象：4歳～17歳の日系3・4世(わずかにペルー人)

人数：1クラス45人程度、全校生徒1,000人以上



北村さんがペルーにいた2年間は、1990年の入国管理法改定(日系人が多く日本に来ることになる)前で、派遣先の日系人学校には、多くの日系人生徒が通っていました。北村さんが日本へ戻ってしばらくして、生徒の親が、続いて、生徒自身も日本にやってくるようになったそうです。

日本語の時間は、北村さんを含む5人の教師が全校生徒を指導。ペルー教育省の認定を受けている学校で、日本語の時間以外は、スペイン語で現地の学校のカリキュラムに沿った授業が行われます。



手探りで毎日授業を考えていた2年間。また、授業以外に、運動会など日本の行事準備も北村さんの出番!

ホームシックにちょっぴりかかっても、インターネットがない。電話交換手に頼み、家族と話せるまで30分待つ。教材も当然(?)ないから、ワープロで作る。でもコピーは高価。1枚のコピーに校長の許可が必要。不便。だけど、面白い。だから、日本語教師の道にはまってしまうことに。



メキシコ編 (国際交流基金長期派遣専門家) 1991～1994年



派遣先：Instituto Cultural Mexicano Japonés, A.C

日墨文化学院(日本語学校)

内容：日本語指導・弁論大会・日本語能力試験

対象：成人(メキシコ人・日系人問わず)

人数：1クラス15人程度、全校生徒500人程度

青年海外協力隊の任期が終わって日本へ戻った北村さんは、日本語教育を勉強しなおし、1991年、今度は国際交流基金の長期派遣専門家として、3年間メキシコへ行くこととなります。

ペルーで働いていた学校と違い、いわゆる“塾”のような日本語学校。日本の文化に興味がある、日本へ研修に行く、日本企業で働きたいという人が仕事の前後(平日7:00～8:30/18:00～20:00、土9:00～18:00)を利用して勉強します。メキシコシティで行われる弁論大会や、日本語を学んでいる人が受ける日本語能力試験の運営校でもあり、仕事は多岐にわたります。

朝から夜まで、ほとんど休みなく働く忙しい毎日の中、メキシコ人のご主人と出会う、結婚。そして出産。同僚や周りの人々に本当に助けられ、また、その“世話を焼いてくださる熱さ”は、15年ぶりに行った時も変わっていなかったそうです。

滋賀県で今、やりたいことがいっぱい♪



△ ご主人、愛犬と一緒に

メキシコでの活動が終わり、地元滋賀県へ戻られます。そのまま気づいたら、ずっと滋賀で暮らしていたという北村さんご家族。現在は、塾で英語を教えている“物静かなラテン人”のご主人と、3人の子どもさんとの5人+愛犬1匹暮らし。

小学校でペルー児童の授業サポート、ご主人の趣味であるマヤ暦カード・マヤ文字の印鑑作りの応援、里山活動などに取り組みられ、また、なぜか鹿が多く遊びに来るため、近所の方から“奈良公園みたい”と呼ばれる畑もされるなど、本当に活動的な毎日！

夢は口に出せば実現する！

庭の片隅に建つ小さな建物。

将来ここをメキシコ空間として活かし、滋賀県に中南米の風を吹かせるのが、今の北村さんの夢。

2号店は、中南米の雰囲気があり、メキシコに里帰りしたような気持ちになれる沖縄の宮古島に出したい！と、楽しそうに夢を話してくださいました。



△ 将来、メキシコのお店にするのが夢

日本で、言葉がわからない中で、がんばって勉強しているペルーの子どもたちにとって、少しでもほっとできる存在でいらればうれしい。

それから、ウ〜ってなっている日本に、メキシコの生き生きとした躍動感、人と人とのつながりの心地よさみたいなものを、ちょっとだけでも、まきたいな。



北村尚美さん

初めてお会いしたのに、あっという間に過ぎた3時間。

経験を大切にし、将来の夢を語る。だから、“今”が輝く。

そんな、温かで優しく、そして力強い北村家を後にしました。

＜＜0V 訪問の感想＞＞

- ペルー&メキシコへは旅をしたことがあり、とても気に入っています。湖西の里山も沖縄の空気も大好きなフィールド。それを人生に取り込まれているような北村さんのお話が聞いて光栄でした。着実にやりたいことを実現していくパワーを持ちつつ、軽やかで自然体でいるって素敵だなあ〜、と北村さんの生き方に憧れました。
(芝本 佳奈)
- 北村さんのお宅はドアを開けたら懐かしいメキシコの空気が漂ってきて、とっても癒されました。「住む場所は滋賀か、メキシコかで滋賀を選んだんですか？」とお聞きしたら、「いやね、そこに宮古島って選択肢もあってね。」と続くお話にびっくり感動！北村さんのように、パワフルに思いっきり自由に生きていきたいなって思いました。
(藤岡 直子)
- 同じくメキシコで日本語教師をし、帰国して4年。これから、何をしようかと迷っていた時期でした。「人生の旅の荷物は夢一つ」という、わたしが好きな言葉を実践されているような北村さんとお話できて、とても元気をいただきました。本当にありがとうございました。
(三谷 奈美)